

専門学校読売自動車大学校

学校関係者評価 報告

「平成 28 年度」

平成 29 年 9 月 12 日

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価

学校関係者評価は、卒業生・保護者・地域住民・企業等役職員等の学校関係者を選任し、学校が実施した平成 28 年度における自己点検評価の結果に関する評価を行い、教育活動と学校運営の改善に向けた助言を行う。

なお、評価の観点は次の項目による。

- ・自己評価の内容が適切かどうか
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策等が適切であるかどうか
- ・学校の重点目標や具体的方策等が適切かどうか
- ・学校運営の改善に向けた実際の取組みが適切かどうか

2. 学校関係者評価委員会の実施

平成 28 年度の「自己評価報告書」を、学校関係者委員に事前に送付した上で委員会を開催し、ご意見・ご提案を頂いた。また、委員の皆様には基準項目毎に 4 段階で評価頂き、その結果も含め報告書としてまとめた。尚、今回は昨年度の結果についての評価や課題の提起を行い、次回の平成 29 年度第 2 回委員会では 29 年度の間評価と次年度への取り組み課題等の討議を行う。

<平成 29 年度 第 1 回> 開催日時：平成 29 年 7 月 27 日（木）17：00～18：00

場 所：610 教室

<平成 30 年度 第 2 回> 開催日時：平成 29 年 11 月 16 日（木）17：00～18：00

場 所：610 教室

3. 学校関係者評価委員会委員の出席者

① 学校関係者評価委員

- ・齋藤 義明：地域住民 亀戸 2 丁目町会副会長
- ・佐藤 広：企業等 (株)関東マツダ
- ・今井 一之：企業等 (株)関東マツダ
- ・松本 等：卒業生 読売理工専校友会 会長
- ・原田 友子：保護者 1 級整備学科 2 年生在学

(敬称略・順不同)

② 学校側参加者

- ・千葉 康文：理事長
- ・吉見 淳一：専務理事
- ・天野 誠一：法人本部長
- ・榎本 俊弥：校長
- ・大宮 律雄：事務局長
- ・渡辺 宜男：校長補佐
- ・北村 眞一：1 級整備学科 学科長
- ・北島 鎮夫：自動車整備学科 学科長
- ・鈴木雄一郎：教務委員長

4. 学校関係者意見・提案と評価平均点

平成 28 年度 学校関係者評価

基準 1 教育理念 4.0 (前回 3.66)

- ・学校方針である「基礎学力・専門力・人間力・資格取得力・就職力」の五つの柱をもとに、適宜、社会が求めている形態に柔軟に対応していることは大変よいことであり、継続的改善を常に行う必要がある。
- ・現状に即した職業教育を行うため、教育における企業連携に積極的に取り組んでいる。

基準 2 学校運営 3.8 (前回 3.66)

- ・快適に学べる魅力的な学校づくりをめざし「校内美化 5 年計画」を実施しているが、今後の少子化を考慮すると、資金確保を含め前倒しの実施を考えるべきではないか。
- ・施設整備計画の確実な実施を望む。

基準 3 教育活動 3.6 (前回 3.33)

- ・関連企業からの意見聴取は複数社から行うことが望ましい。
- ・業界からの意見集約だけでなく、教職員が実際に企業現場に出向き、時代のニーズを身に付けることも重要である。
- ・技術の習得や資格の取得に向けた取り組みを確実に実施している。

基準 4 学修成果 3.6 (前回 3.00)

- ・一級合格率が例年と比較し全国的に低い状況であったが、技術力を低下させずに合格率向上に努力してほしい。二級合格率 100%は素晴らしいことと評価する。
- ・両学科ともに、国家試験合格率向上に向けてしっかりした取り組みを実施している。

基準 5 学生支援 3.8 (前回 3.33)

- ・社会のニーズを踏まえた教育を積極的に取り入れており大変良い。ディーラ等との連携を取り、最新情報の収集を怠らないようにしてほしい。
- ・卒業生に対しても教育的な支援を行う体制作りの検討も必要である。
- ・就職指導がきめ細かく行われている。

基準 6 教育環境 4.0 (前回 3.50)

- ・限られたスペースで大変苦勞があると想像する。コモン・レールの実習車両は最新であり生徒にとってよい状況である。今後も十二分に教材を活用できる環境を維持してもらいたい。
- ・教育効果の高い設備や教材を積極的に導入しており、常に改善を検討している姿勢は評価できる。

基準 7 学生の受け入れ募集 3.6 (前回 3.66)

- ・2018 年問題はすでに始まっており、大変苦勞されていると思う。留学生の割合が増加しているこ

とも致し方ないことであるが、言葉や価値観の違いなどの問題もあると考える。

- ・説明会・高校訪問などの機会を通し、学校の魅力をどう伝えるかをさらに検討する必要がある。
- ・体験入学の内容を工夫し、出願者増加に取り組むとともに、出願の可能性が低い学生に対しての効果的なアフターフォローについてもしっかり協議がなされている。

基準 8 財務 3.8 (前回 4.00)

- ・母体である新聞社に対し、より強く学校をアピールすることも重要である。
- ・経費削減に向け、今後もスクラップ・アンド・ビルドの考え方で努力すべき。

基準 9 法令等の遵守 4.0 (前回 4.00)

- ・危機管理の重要性について全教職員の自覚を促すと共に、学生に対しても継続的にきめ細かく指導する必要がある。
- ・問題なし

基準 10 社会貢献・地域貢献 3.4 (前回 3.00)

- ・自動車業界の情報発進基地として活動をする必要があり、今後も、地域の行事に参加協力し地域貢献を行う必要がある。
- ・社会人としての意識を養うためにも、学校外でのボランティア活動をより積極的に実施すべき。

基準 11 国際交流 3.8 (前回 3.33)

- ・留学生の受け入れは、業界の労働力確保のためにも必要不可欠であり、力を入れて取り組むべき課題と理解している。
- ・留学生の増加に伴い、専門教育と並行して日本語教育の充実を図るべき。また、入学試験での能力評価や職種選択の適性などをより厳しく評価する必要がある。

平成 28 年度 of 取組状況

- ・就職後の本人のためにも、「基礎力、人間力、資格取得力」に重点を置き、自動車業界に早く順応し、時代の流れに合わせて活躍できる人物の育成を期待する。
- ・学生に対する就職指導は、より時間をかけて理解を深めさせることが大切である。
- ・企業として、企業連携の強化についてはできる限り協力する。
- ・学校の教育や指導には満足している。
- ・今の方向性でよいと考える。決めたことをどれだけ確実に実践できるかが重要だ。

まとめ

委員の方々のご意見・ご提案を参考として、今年度及び来年度に向けた学校運営の検討を行う。

以上